



おちほ

第26号 平成8年9月10日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

泳いだ
遊んだ
笑った!

湖畔学舎



8月の1・2・3と、2泊3日の湖畔学舎に行ってきました。今年には琵琶湖の今津浜です。初めての場所ということで、どんな所なのか不安も抱えていましたが、寮生さんはすんなりと慣れ、適度な緊張感が良かったのか大きな事故もなく、皆元気に過ごすことができました、ホッとひと安心でした。

天気にも恵まれ、青い空の下、広い琵琶湖で楽しそうに遊ぶ寮生さんの笑顔もさわやかでした。いつも2班に分かれて交互に入水するのですが、あまりの暑さに我慢できず飛び込んでしまう人、また逆に水は苦手で浅瀬で遊ぶのが好きな人、と楽しみ方は様々でしたが、水上運動会では棟對抗競技に盛り上がり、夜のアトラクションではキャンプファイヤーのもと、職員やボランティアさんの出し物や寸劇で演出された花火の打ち上げで、楽しい夕べのひとつをすごし、3日間を満喫してくれたのではないかと思います。

また今年もたくさんボランティアの方が来てくれました。お世話になった宿舎の方ももちろん、多くの人に支えられてこそ無事に終えることのできる行事なんだと実感すると共に、寮生さんの笑顔で疲れもふっとぶ今年の湖畔学舎でした。

ふくむ今昔

椎の木初代会長 吉田ナミさんを想いで

理事長 増田正司

落穂寮の経営母体の椎の木会は、昭和22年7月、創立して間もない近江学園の後援団体として発足した。

その名も学園歌にうたわれる「まずたのむ椎の木もあり夏木立」（松尾芭蕉の句）からとって、「近江学園椎の木会」と名づけられた。昭和23年4月、児童福祉法が施行され学園が県営になったのちもしばらく後援をつづけた。

学園のなかで重度児や年長児の問題が討議され、重度児の施設「落穂寮」が、社会に巣立つ可能性は難しくとも社会にたぐ拠点として、昭和25年5月誕生した。椎の木会は新しい落穂寮の経営に専念することになった。

創立時、椎の木

会長は吉田さんが就任し、全県の婦人に「子をもつ母の愛を落穂の子に」と呼びかけ、二、〇〇〇名余の後援会員をつくられた。会員は折にふれ寮生の慰問と励ましにみえた。家庭をはなれ愛情ほしい寮生は、身体をふるわせ歓声をあげ会員を出迎えた。天衣無縫の喜びの歓迎が訪問者の愛の心を強くつよくゆりうごかしていった。吉田さんの呼びかけは県下各地に反響し、各地に地区委員がつくられ、地域に後援会員をひろめ、また寄附金をあつめられた。吉田さんの人徳がたくさんの協力者をつくり、その協力の輪は吉田さんが逝くまでつづいた。

自戒きびしく、気性ははげしかった吉田さんは、また人一倍情の厚い人だった。僕が赴任したときの事務引継ぎに、病中の斉藤寮長にかわって立ち会われた。短時間の予定が深夜におよんで、寮に泊られ翌早朝帰宅された。代理者の責任をはたすお考えだった。

法人役員会がひらかれ、はじめ

て役員にお目見えすることになった。役員は各界の名士ときいて、恐るおそる会議にでた。会の顧問で僕の紹介者でもある糸賀先生の紹介で末席に緊張してすわった。会議後の歓迎会で、宴たけな



▲創立30周年記念式の日吉田ナミさん

たらしい。しかし斉藤寮長のもと寮内外の処理をまかさされ、大将づらして動きまわった。それについて一言もいわれたことがなかった。

のちには公私ともに親しくしていただき、またたいへんお世話になり感謝で一杯だ。忘れがたい思い出がつぎつぎ浮んでくる。

落穂寮は近江学園から独立したが、大きな借金をして、開設の敷地と建物を買収して始まった。その借金返済を椎の木会が背負って県下の婦人に訴え、寄附をつのり5年ほどで完済することができた。人にあえば「落穂寮の子どものために」と呼びつけられた吉田さんにとって、椎の木会と落穂寮は愛してやまない我が子のような存在だった。落穂寮の足固めは吉田さんなくしてできなかったと思う。

本場に立派な人だった。在りし日のお姿をしずかに思い浮べつづ

ふくむ今昔

アトラシタあれこれ

寮長 山下陽一

アトラシオリピックが開催されました。連日テレビや新聞で選手の活躍ぶりが報道され、自分との戦いを限界まで燃焼させているすがたや、印象ぶかいドラマが数々あったようですが、わたしがこの大会で最も印象にのこっているのは開会式です。

アテナイの神殿で点火されたトーチが世界の人々に引き継がれ、最後のランナーに引き継がれようとしたとき、聖火台のたもとでライトを当てられたのは、左手をブルブル震わせてトーチを支え、からだ全体が緊張でこわばって立っているモハメド・アリの姿でした。この衛星中継をみていた人々は、特別な感動をおぼえたのではないのでしょうか。

ボクシングの過去の世界的チャンピオンのかれはけっしてお行儀のよいスポーツ選手ではありませんでした。過去の栄光がまだ鮮明ななか、かれは現在脳に障害を受け、全身に運動機能障害があらわ

れるパーキンソン病に侵されているのです。

私は世界一をきめるスポーツの祭典に、身体の躍動とそのうららかな運動機能の障害の問題を、同時にしかも感動的に描いてみせたアメリカのオリピックは、スポーツの局面のみではなく、多角的に捕える成熟をみることできました。

アトラシタは市内人口約四〇万のうち、ほぼ七〇パーセントを黒人が占めています。開会式の中で音と映像

によりキング牧師の紹介もなされました。このようなところにも黒人差別の重い歴史を背負い、開放運動の礎として今日に至った指導



者の出自を街の主張としているのをよく感じさせられました。

「わたしには夢がある。」この言葉は、スピーチのなかで繰り返されていましたが、街を代表する指導者の業績をたたえることも忘れていない。そしてこれは世界中が知っていることをあらためて振り返らせてくれました。

さて、日本におきかえるとどうなるでしょうか。さしずめ、国際大会が滋賀県で行なわれたとき、当時の糸賀先生の映像と「この子らを世の光に」の録音が流されることになるのでしょうか。

妙な比較かもしれませんが、黒人開放運動の指導者と福祉の実践家の共通点で見落としてはならないことの一つに、「夢」があげられると思います。しかもこれが破れても悲鳴をあげることなく、なお「夢」を持ち続けている事ではないかと思えます。

その場面の限界に達したときでさえ、悲鳴をあげないで受入れる事ができる。これは深い信仰にたっていることに寄るものかも知れません。それに加え、わたしは、楽天的な捕え方ができることこそ、わきあがる「夢」のみなもとだと思っています。

「とんねる」

館長 溝口 弘
 社長 溝口 ヒコ

「吾輩胡弓歩へ向けての強化歩行のたびに、喘ぎながら登ったあの落着きの坂の苦しさがたまたまの炎天下、たかし君引つ張って砂利道を歩くが、もう一歩がたまたまに達があった。日陰と木が欲しい！歩き疲れたメンバーの誰の眼も訴えられた。

あれから二十年弱、その坂は舗装され、路肩の樹は驚くほど成長して、まるでトンネルのように坂の上を覆っている。その心地よいトンネルのようになって、お茶会の上で、周りの樹々はこれだけ見上げればかたに大きく近づいて、全体が非常に落ちてきて感じられた。石部移動から二十五分、寮の環境はそれほど変化がみられる。比して利用者の人たちは寮生さんの暮らしはどうなのか。寮生さんに近いいながら本当にたまたまし生活を登らぬが、寮生さんの生活を垣間みるかぎり樹々の変化は

「連携」

武藤 敬助

初めに施設の現状等を十分承知していない者が「成人施設化」という大きなテーマに対して考えを述べてきた。それに対してお許しをいただきたい。寮生さんの生活の証書が出てきたのは、私は五年前に在りまして、当時、私は三業養老院高等部で所属していただけだが、その話題の大きさは今でも印象に残っています。

「使いやすい」

富田 純子

私が落穂で働いていたのは、一年余りの短かい間です。仕事は洗濯、繕い物、食事（昼食）の配膳と寮生さんの食卓の補助と食堂の後片付けと清掃です。それぞれの仕事は難かしく全部こなして行くには大人数分です。手廻り良く片付け行かないと間に合いません。



▲海外研修での武藤さん

どのものは感じられないのである。生活に馴染がない。利用者の人生に入れ込みが感じられない。仕事としてのおまじろみがか伝わらない。こまに理事長さんが前のめりである。子供たちの生活はかくあるべしとムチ振るわけにもいきません。ここは、番、利用者の生活への豊かな（ちろんソフトの）生活へ向けて動くのなか、チャレンジして欲しい。

安全や健康を守るはいわゆるがな業務であって、それだけでは生活が改善しはかたと言われない。谷あり山あり、苦あり楽あり変化・刺激あってこそ、人々の生活が身がわが日の生活（職員）と寮生さんの暮らしを繋げて欲しい。身近に題材は山はほら。どう感じても、感じきれなかったら学んで欲しい。自己研費も給料の中にちゃんと含まれる。社会福祉法人という公的な枠組の中で仕事、ということを見習って欲しい。いわばわれわれ市民、国民の委託をうけての仕事なんだから、大変大きな責任がある。

親元の落穂寮は丈夫だろうかとどう不安をもちました。確かに何とかなければならない状況は理解できるのですが、もっとさじょう思いをもちました。今では杉山寮として軌道に乗っているように、杉山施設での反省を今後の成人施設化へ十分生かしてほしいと思います。私が成人化に望むべきことの一つは、「連携」ということです。地域・職員・関係機関等と十分な連携をとっていくことが大きな支えとなることは確かだと思います。地域に根ざした施設こそが閉鎖的と言われし施設の短所を少しも変えていくことができるのではないのでしょうか。一住民として落穂寮はまだ物足りないものを感ずています。散歩に出かけた時も施設職員から「あいさ」とかをかけると、日頃のふれ合いをもっとしてほしいと思います。地域と共に歩む施設をこれからも目指してきたい。とりとめもなく、かつ一方的な考えで申し訳あきらめませんが、実現するには前向きな取り組みをお願いします。これは寮全体の連携「和」をもつ

あれもないこれもいい、ないから出来ない。あそこ比べたら条件が悪すぎる。だからやらない。もういい加減に辞めて欲しい。知恵しぼって力併せて、寮生さんの生き生きとした生活のために、地域社会の一員としての充実した暮らしへ向けてサポートしてはかないか。やりがい、ばいばいの仕事ではないか。

さて、肝心の成人施設云々の件がかなり乱暴だが、どれも心要な資金・用地・行政交渉等それをとっても壁だらけで成りそうもない話かもしれない。話もかき、どうして必要（利用者）にらいてアタックするべきであるし、どうにアタックするべきであるのにか行動しないことには、

毎日同じ仕事の繰り返しで始まる。毎日が同じで、重労働の者が、多額の寮生さんかかります。二十四時間を交代勤務で御世話されて居るのですが、寮生さんの事、雑用から日々の年間行事、時には病室と交りやつかい、事、先生方は大変な事ばかりです。専ら強く根気良く対処し頭の下る思いです。寮生さんごとの日の具合や健康状態は左右されますが、出来る事は自分達の手で、とグループに分かれて任担。専ら、児童が成長し、作品の製作等、児童が成長し、色々の問題年齢者と成りつづ有る。色々の問題が有る。心身のケアや住居、落穂の施設も古く成り、建替の時期にきている。傾斜の急な所ばかりであちこちに、建物や点在して、古くて不便で使いにくい。雨の日、雪の日、風の強い日。移動だけでも非常に大変です。使いやすく、自立出来るように、移動しやすく、気持ちよく過ごす施設を建てたい。大変な事ばかりの中にも寮生さん、先生方、職員、皆さん、〇一五七にも負けず、夏の暑さにも負けず頑張ってください。

道は開けない。どんなに困難かと思われる事、一歩一歩と進めるうちに意外と開けてくるものである。行動すれば人の出会いもあるし、壁に当たって出会いもされることもある。自分や組織の枠を越えつけないでチャレンジしてあげば、苦しいことも多いが、派手なほどの喜びもある。自分が膨らまないのに、寮生さんたちの生活が充実する訳がない。課題・問題が服の襟にあるままでは危機ではなくして、チャンスなのである。

武藤 敬助

乗り越えていけることを期待してあります。

成人施設化を考える

DREAMS COME TRUE.

DREAMS COME TRUE.



誰かがホットプレートでコンソントを抜っていたり、割るもりの卵を握りつぶしてしまったりと、ハプニングもしばしばですが、ハプニングがあっても、ちよつとくらゐ失敗しても、そこは頑強、愛嬌、羨しいひとときです。そして、寮生さんの隠された才能を見ることができるときのこの時、ホイップクリームの初立でならおホせの人、別荘の得意な人、妙に慣れた手つきの人、包丁さばきのうまい人、食べる専門の人もいますが、それぞれ得意分野を持ち、意外な一面を見せてくれます。

そうして奮闘する一約一時間、ようやく皆で協力してぐつぐつおやうのできすぎ！、揃って「いただきますー！」——あっという間にペロロ。「おかわりください」もつとペロロ。もう少し味わって食べたらずい、おかしそうに食べてくれた食ったがかった。寮生さんの食ふぶりを見て、職員はホッと胸をなでやすうのです。

7・8月は食中毒予防の為、手づくりは禁止、やむなく延期となりましたが、さて次回は何かなぞをり御期待！

4月、おこのみ焼き。5月、ミルクレープ。6月、フレンチトースト。毎月第4土曜の恒例行事「A様おやつつどい」のメニューです。その月の担当職員が料理の先生となり、寮生さんと一緒に材料を誂るところがつかつかいていくの取り組み。寮生さんの楽しみのひとつとなっているようです。いつもこのホールにあがり出さない人も、この時ばかりは皆と一緒になり、切った語ぎたり焼いたり時には、なめたり泣いたり思ったりもあけないな！と思っている、

完璧な出来上がり

—飯盒炊きさん—



▲味つけは、バッチリ

8月21日、おいしいカレーライスを食べようと、妹背の里まで飯盒炊きさんに行きました。昨年は失敗が繰り返った飯盒炊きたたのですが、その訓を生かして今回は味も量も完なる出来上がり、カレーも美味しく、あつという間に全部食べてしまいました。お腹一杯になったみんなの表情は、笑みがいっぱい。満足感に満ちあふれた飯盒炊きさん、B様つとまに、大成功、でした。

毎年恒例の…

—阿星山登山—



▲やったね！！

B様では、毎年恒例の阿星山登山をしました。ゴールデンウィーク中ということもあって、燃省している寮生さんもいましたが、人数は少ないものの、天気も良く、暑くもなく寒くもなく、登山日和という感じ、みんな気持ちの良い汗をかいています。みんなで手をとりあって助け合いながら登りつめた瞬間、とても満足感一杯になりました。そんなうさかいな気分になりましたが、心地良い風がふくむなか、保母さんが一生懸命心をこめて出してくれたおでんが最高でした。最後は頂上で写真を撮り、ケガもなく無事帰ることができました。

とろとろ すいすい

大きな鍋ではカレーがグツグツと音をたて、周囲にはおもしろそうな匂いが漂っていました。それから皆の手玉に配られたの長かいたこと。おもしろな匂いがしていたが、余計そう思ったのかもしれない。さあ、「いただきます」をさぐら早く、口いっぱいカレーライスを頬張る皆の姿がありました。背空の下で食べるカレーライスは、やっぱりおいしいですよね。1杯も2杯もぺろりと平らげたい、2杯3杯おかわりをしたい、鍋いばいにあつたカレーが殆んどなくなつてやと、あ、お腹いっぱい食たあ。満足、満足、と言いたげな笑みを浮かべていました。

飯盒炊きさん

去る5月26日、とても良い天気に恵まれ、C様は野洲上流まで飯盒炊きさんに行きました。朝からバタバタしながらも、マイクボックスに乗り込み、いざ出発、わくわくしながらバスに揺られて野洲川に到着した時には、先発隊がすでに準備を始めてくれていました。本日のメニューは、

- 一、カレーライス
- 一、サラダ
- 一、リンゴ

▲おいしいカレーになあれ



その後河原で暫く水遊び。ひどい職員に水をかけられりしながらも、楽しいひとときを過ごしました。最後にジュースを飲んで再びイクロバスに乗り込み帰途に就きました。

おいしいカレーライスもいっぱい食べて、ジュースも飲んで帰したC様の皆さん。その日のおやつはなんとアイスクリーム。おいしいことばかりの1日でした。ごちそうさまでした。

♪ トロトロトロトロ ♪

最近毎日のように中毒のニュースが、テレビや新聞等で報道されています。

「病原性大腸菌 O157」

原因がわからないまま、事態は悪化するばかりです。私達も落穂寮の台所をお預かりしては以上ひとことでは済まされません。細心の注意をせはら、少しでも、おいしいものを、寮生さんや職員に食べていただきたく思っています。

ゆげのむこうがわ

いと思っております。熱いものは熱いうちに、冷たいものは冷たいうちにと思っておりますが、なかなかそういわけはむすまかせ。ここが集団給食のむすまかせ。

山に登りました。ゴールデンウィーク中ということもあって、燃省している寮生さんもいましたが、人数は少ないものの、天気も良く、暑くもなく寒くもなく、登山日和という感じ、みんな気持ちの良い汗をかいています。みんなで手をとりあって助け合いながら登りつめた瞬間、とても満足感一杯になりました。そんなうさかいな気分になりましたが、心地良い風がふくむなか、保母さんが一生懸命心をこめて出してくれたおでんが最高でした。最後は頂上で写真を撮り、ケガもなく無事帰ることができました。

しどころです。残業がある、昔人間でもったいながり屋の私は、処分するのがもったいなく思っています。きれいに食べた食器を見ると、「よしよし」とうれしく思うのです。二年前の平成六年五月末、落穂寮で発病したA型肝炎のことを思い出します。例年になく猛暑の中、次々と感染して入院する寮生、職員も疲労のためか何人か感染するありさま。あの時の苦勞を無駄にしてはいけないと思いが、今でも包丁で月トントント月。

「落穂寮の人と仕事をして...」

橋元涼子

今日、落穂寮に行った。行く前の私は、不安や心配な気持ちでいっぱいでした。こういうことは思っ
てはいけないのかもしれないけど、「落穂寮の人は、私たちと同じ人間だ」と先生に言われたけど、私の心の中では、「やっぱりちがう...。」と少し思ってしまう。いくら同じ人でも障害を持っていたら少しちがう目でみてしまう。
けど、今日障害を持った人たちといっしょに「おふるそうじ」をして、私の気持ちは変わりました。障害を持っていても、私たちが声をかけてほしいことを言うのと、初めは反応がないけど、二・三度言うとうわかってくれて、私たちよりも一生懸命がんばってそうじをしていました。自分がする場所のそうじが終わると、つかれたのか座りこんでねている人もいた。それがなんだか、「かわいいいな...。」と思いました。
けど、一人ずつと座りこんで、こちらから話をかけてもまったく反応がなくて遠くを見ている子がいました。一度は、立ってぞうきんを持ってふこうとしてくれ

たけど、すぐ座って今度はぞうきんを持ってもくれなくなりました。私たちはどうしたらいいのかわからなくなりました。けど、何度も何度も話かけたら、その子が立ってくれて、ぞうきんを持って、そうじをしてくれました。一人でそうじをしたわけではありませんが、今日一日でとても大切なことを学んだと思う。初めに思ってた自分の気持ち、なさけないです。やはり障害を持っていると、他の人とは少しおくれる。たったそれだけ。あとはみんなと同じ。私たちがきれいな花を見て「きれい」と思うように、障害を持った人も

交流会 中 部 石



私には一生懸命がんばってるように見えた。さっきまで何もしなかったのに、きゆうにする気になったのは不思議です。けど、それは私たちの言っていることがわかってしてくれたのじゃないのかなと思
そうじをしてくれたことは、とてもうれしかった。
落穂寮のみなさん、へんな気持ちをもって、ごめんなさい...。

泉

▽落穂寮成人施設化が、ゆっくと、でも確実に音を立てて動き出しています。今、何を求められているのか、私達は何がしたいのか、より良いサービスを提供する為には？日々頭を悩まし、話し合っています。しかし、客観的な意見はなかなか出ませんので、皆様からの御意見・御協力の程よろしくお願い致します。

▽最近猛威を振るっている病原性大腸菌O157が、伝染病に指定されました。これで少しは落ち着くのでしょうか。でもまだまだ暑い日が続きます。O157に限らず、食中毒には充分気を付けましょう。

木 言

「してあげる」というのは自分の徳をその相手にあげることに、「させて頂く」というのはその相手から徳を分けて頂くことになる。

ある古老から聞いたことばです。施設職員は、「してあげる」という立場にたちがちです。自分の徳を減らすような接し方にならないように気をつけたいものです。